

「つぼみ」細目(四)

自第十六開至第十八開

第十六開 明治二十四年六月二十日発兌

同盟姉妹校、会友、女文会々則摘要
会説

如何にして夏休を過さむ

卒業生諸君に告ぐ(承前)

花壇

女学の衰微を歎じて自ら警む

松山女学校生

春秋の評

同志社女学校本科一年生

所感 神戸英和女学校本科三年生

旅窓旧友に遇ひし喜びを記す

梅花女学校一年生

紀事一則

松山女学校二年生

音楽学校を隆興すべきの論

神戸英和女学校本科三年生

奇夢に感ず

同志社女学校本科一年生

樹陰読書の記

梅花女学校本科二年生

挾友説

松山女学校生徒三年生

独りを懐むの説

神戸英和女学校本科二年生

落花の感 同志社女学校本科二年生

裁縫の効用 梅花女学校本科一年生

吾人果して世海に出るの用意あるや

神戸英和女学校三年生

月夜亡友を悲む

同志社女学校本科一年生

梅花女学校本科一年生

山内祥史

S. F. 一六〇一九

一九〇二〇

二〇〇二一

二一〇二三

S. N. 二三〇二四

二四〇二五

二五〇二六

佐野 徳 二六〇二七

二七〇二八

二八〇二九

三〇〇三〇

愛の勢力 熊本女学校生徒 三七〇四〇

名苑 女子教育の必要を論ず(承前) 四〇〇四四

女子教育に対する余が卓見(其三) 井伊松藏 四五〇四八

所感 筑紫の隠居 四八〇五〇

説林

確信と学問 五一〇五二

こゝとをいふて耻をかきし話(幼年生の為) 北郊老嫗 五二〇五五

遺芳

ハンナ、モール女史 五五〇五九

文華

卒業諸姉を送る 本科一年生 柴田静栄 五九〇六一

詩歌数篇 川野松山・北郊散史・菊地はる子 五九〇六一

記要

清流一致岡女学校の新加盟、同盟校卒業式日及

卒業生、第二回女文会的女子教育問題に対する

松山女学校の意見、神戸英和女学校高等科、興

文会、同志社と米国諸大学、同盟校卒業生姓名

(承前)

六一〇六六

会告

第十七開 明治二十四年九月三十日発行

女文会々則摘要
会説

世評果して懼るべきか 国文学特有の修飾 美軒小史 一〇四
四〇七

花壇

秋夜の感 梅花女学校卒業生 七〇九

試験の苦 松山女学校本科四年生 九〇一

中秋の感 梅花女学校本科二年生 一一一

終夜の感 松山女学校本科二年生 一二三

夏季の獲物 梅花女学校本科二年生 一三三

逝にし祖母を慕ひ併せて同窓の諸姉に望む

松山女学校本科四年生 一三〇一五

教育は迂遠なりと謂ふ可らず 梅花女学校本科二年生 一五〇一六

普通の学を修めざる友を忠告する文 梅花女学校本科一年一期生 一六〇一七

拾芳

女学校の卒業生及び学生諸君に贈る書

神戸 エミリー、エム、ブラオン 前神松校和訳 一七〇二〇

談叢

意大利の女子教育 二〇〇二二

空気浴 二一〇二三

女学生の手紙 玉碎軒主人 二二〇二四

消暑之遊 玉兎子 二四〇二六

今日の高野山 二六〇二七

諺ぐさ

余薫

ミッセス、エリザベス、フライ この花訳 二七〇三〇

文苑

詩話

和歌のしをり及詩歌数十首 川野松山・橘 清

良・きよか・淡道人・三木真砂子・中根

つね子・伊藤貞子・今村幸子・吉田千賀

子・やす子

三〇〇三二

三一〇三四

記事

同盟諸校の新教師、大阪一致女学校の改革、松

山女学校の新築計画、山陽英和女学校の初穂、

在米宮川とし子より編輯者へ贈られたる書翰拔

書、美登理雑誌の発行、「清流」第一号、興文

会

特別会告、正誤、会告、入会報告、転住広告

三四〇三八

第十八開 明治二十四年十月二十九日発行

告白

会説

学文に捷路なし

一〇四

花壇

秋の七草 京都同志社女学校本科生 Y. N.

薔薇 神戸英和女学校本科二年生 柴田よね

秋夜読書の記

松山女学校本科一年生

慈善会を創立する相談の文

梅花女学校本科一年生

七〇八

まいや氏歓迎の辭

同志社女学校本科生

C. T.

小児の養育 松山女学校本科三年生

八〇九

一致 梅花女学校本科四年生

九〇一

火災見舞之文

神戸英和女学校予備科一年生

渡辺けい

一一

感又感 梅花女学校本科三年生

一一〇二三

裁縫学校開業祝詞

松山女学校生徒

一四〇一五

学生の生涯 梅花女学校本科二年生

一五

秋草の図に題す

同志社女学校本科生

T. Y.

一五〇一六

女子の謙遜 梅花女学校本科一年生

一六〇一七

秋夜遠別の友を憶ふ

梅花女学校本科三年生

一七〇一八

拾芳

音楽の弁

猶存小史

一八〇二〇

女学校の卒業生及学生諸君に贈る書(承前)

神戸 エ、エム、ブラオン

前神松校和訳 二〇〇二三

談叢

一家八児皆な俊秀

二三〇二四

グラッカイの母

二四

米国に於ける英文学の勢力

二四〇二五

登叡山

鳥取 雲外生

二五〇二六

今日の高野山(接前)

諺ぐさ(第二回)

三〇〇三一

余薫

ミッセス、エリサベス、フライ(接前)この花詠 三一～三四
数学哲学文学の大家パスカールの略伝

菅原竹弄生 三四～三六

文苑

詩話(承前)

松山堂主人 三六～三七

和歌のしをり及詩歌数十首 川野松山・淡道

人・多根・やす子・木村 悦・森 菊代・

記事

中谷 季・村上 仲・村上 種・大島栄
子・伊藤貞子・中根つね子・酒井とさ子・
美喜まさ子

三七～四一

同盟諸校の新教師、女学校また新に起らんとす、
女学生の一文値五十弗、同盟姉妹校の歴史(鳥
取英和女学校の部)
特別会告、会告

四一～四二